# NPO法人かわさき創造プロジェクト

# 創立 10 周年記念誌

# 軌跡

地域の一員として

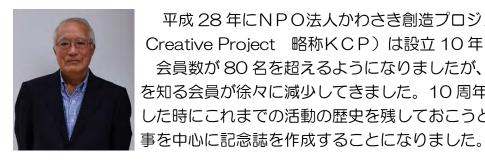


# 目 次

10年	:誌の発行にあたって	— 1
I.発	足から 5 年間の歩み	<b>—</b> 2
1.	発足当時の時代背景	_ 2
	(1) 高齢者人口の動き	
	(2) 05 年当時の川崎市の施策	
2.	任意団体 かわさき創造プロジェクトの発足 設立趣旨 ―――――	— з
	(1) シニア地域活動モデル創造ワークショップに参加	
	(2) 活動準備会の発足と「ワークショップ発表会」	
	(3) かわさき創造プロジェクトの結成	
		<del></del> 7
4.	チャレンジの時代	8
	(1) 多様な事業に挑戦	
	(2) 新事業立ち上げを目指す意見交換会	
II. 2	010 年以降の事業活動	12
1.	地域情報受発信事業	12
	(1) 事業の始まりと狙い (2)10年の歩み (3) 活動とサイト内容	
	(4) 特徴 (5) 課題 (6) FMかわさき・TV神奈川に出演。	
2.	シニア向けパソコン学習支援事業	15
	(1) 塾からスタート (2) 飛躍の始まり (3) パワーアップ	
	(4) 躍進 (5)「ありがとう」に支えられて	
3.	シニアパワーアップ事業	<del></del>
	(1) シニアパソコン教室	
	(2) シニアライフ講演会	
4	(3) シニアの傾聴講座	0.4
4.	<b>小学校のパソコン学習支援事業</b> (4) 東世の地 まり トスの祝い。 (2) 4 0 年の生 3	— <b>2</b> 1
	(1) 事業の始まりとその狙い (2) 1 0年の歩み	
_	(3) 活動内容 (4) 特徴	
	ゆうゆうサロン事業	_ 23
6.	中野島小学校「遊びと学びの寺子屋」事業	24
	(1) 学習支援教室 (2) 体験学習•世代間交流	
	中野島小学校「学校施設有効活用事業」	_ 26
Ⅲ. 104	年目委員会の発足と活動報告	<b>– 27</b>
	概要・総括	
W. K	CPの組織運営・広報・対外的な活動	_ 29
1.	組織運営	_ 29
	(1)会員数の推移(2)会員の平均年齢(3)交流会活動とイベント	
2	. 広報活動 ————————————————————————————————————	- 31
	(1) HP による情報発信 (2) イベント参加 (3) 冊子の配布	
V. NI	PO法人かわさき創造プロジェクトの沿革(年表)	_ 34
T		
VI. 付記	記 NPO法人かわさき創造プロジェクトの組織図・役員歴 ――――	- 37

# NPO 法人かわさき創造プロジェクト(KCP) 10周年記念誌の発行にあたって

#### 代表理事 栗田 下道



平成28年にNPO法人かわさき創造プロジェクト(Kawasaki Creative Project 略称KCP) は設立 10 年を迎えました。 会員数が80名を超えるようになりましたが、それとともに設立時 を知る会員が徐々に減少してきました。10周年を記念する会を開催 した時にこれまでの活動の歴史を残しておこうということになり、理

幸いにも先達の方々が活動記録をパソコンに残しておいてくれたので、それらをか き集めて思い出を辿りながら編集した次第です。

今でこそNPO活動は広く市民に認知されてきましたが、10年前は「NPO?」 という社会状況であったと思います。

地域に密着した有用な情報提供・地域課題に向けた支援活動・地域参加の機会と 場の提供を行い、豊かなシニアライフ構築と市民生活向上に寄与するという大きな目 的を掲げてスタートし、手探りで試行錯誤を繰り返しながらの 10 年でありました。 いま、あらためて設立趣旨を読み返してみると、はたしてどれだけのことが出来たの だろうかと考えますが、及第点はつけられるのではないかと思っています。

この 10 年誌が、新たに会員になってもらう人達にKCPを知ってもらう資料と して、また現会員が次の10年に向けての灯火となれば幸いです。

最後にこれまでKCPを応援・支援して頂いた皆様に深く感謝いたします。

平成30年1月

# I 発足から5年間の歩み

# 1. 発足当時の時代背景

# (1) 高齢者人口の動き

2004年10月1日時点で、60歳以上は総人口の19.5%であり、2015年に26.0%、2040年には33%に達すると見られていた。これは、2015年には4人に1人、2040年には3人に1人が高齢者になることを意味し、必然的に、高齢者への対策は自治体にとって今後益々大きな問題となっていた。

一方、2003年には、高齢者の7割は、「元気な高齢者」とみられていた。各自 治体において、高齢者への施策として取り組まれていたのは、高齢福祉や障害福祉、 介護保険などだったが、その中心は「元気でない高齢者」への支援内容が多かった ようだ。

また、高齢者の社会参加活動状況においては、内閣府の高齢者意識調査(60歳以上の男女対象:2003年)によると、45.2%が何らグループ活動へ参加していないといった調査結果があった。

このことから、今後益々増加する『元気な高齢者』が皆、自発的に社会活動へ参加 したり趣味に興じたりと、社会でより元気に明るく活動していくとは考えにくかった。 さらに、2007年には団塊世代の大量定年問題があるなど、自治体にとって「元 気な高齢者」への対策は一層急を要すものとなっていた。

(日本都市センター 関本耕司氏の論文を参考にした)

# (2) 2005 年当時の川崎市の施策

「シニア世代が地域社会で能力を発揮するための支援」施策として地域課題の解決に関心を持つ市民を対象とした「シニア地域活動モデル創造ワークショップ」が開催された。このワークショップは市民主体の地域活動モデルの創出を狙いとし、シニア世代の経験や力を地域で活かすしくみづくりを参加者自身が検討し、行政が支援していくというものだった。合わせて、生涯学習、市民活動、起業・創業、就業等の分野で、地域人材の多様な能力を活かすための環境整備や制度設計を進める、地域の教育機関、NPO、企業、行政機関等が連携し、多様な学習機会の提供や人材活用を支援するネットワークの形成を推進するなどの検討が行われた。

地域に戻ってくる「団塊の世代」、言い換えれば「元気な高で活動する NPO などの市民活動団体にもとめた。



川崎市の「シニア地域活動モデル創造ワークショップ」を報道した新聞「定年時代」 2005 (平成 17) 年 6 月

# 2. 任意団体「かわさき創造プロジェクト」発足

# (1)シニア地域活動モデル創造ワークショップに参加

- 2004年(平成 16年)に川崎市から、次のような募集があった。 「地域課題の解決に関心を持つ市民を対象としたワークショップを開催し、市 民主体の地域活動モデルの創出を図ります。ワークショップでは、シニア世代 の経験や能力を地域で活かすしくみづくりを参加者自身が検討し、行政が支援 していきます」
- 同年6月に応募した37名が一堂に会した。皆、初めて顔を合わせる人たでで、「これから地域活動により、地域課題を解決していきたい」ということだけが、共通項だった。
- 主催する川崎市は、総合企画局・経済局・健康福祉局・市民局・教育委員会の5部門が連携して横断的に取り組んだ、当時としては珍しい事例であり、それだけの意気込みが込められていた。
- このワークショップ活動の中で、自分が温めてきたテーマをブラシュアップ する一方、他のメンバーの提案や思いを聞けたことが参考になった。

# (2)活動準備会の発足と「ワークショップ発表会」

- 活動していく中で、似たようなテーマや思いを抱く同志が次第に固まりとなり、9つのグループが出来上がった。
- その中で、「IT 関係の力を生かして地域を活性化していきたい」という集団が 一番大きく固まり、実際の市民活動に向けた準備会がスタートした。
- 準備会の中で、あとで初代の代表となる上嶋正義を中心に、会の名称を「かわさき創造プロジェクト」に決め、設立趣意書の検討、定款の作成などの案作りが進んだ。
- 2005 年 3 月に「ワークショップ発表会」が開催された。はじめに財団法人 シニアルネサンス財団事務局長の河合和(かわいやまと)さんと、関東経済産業 局総務企画部企画課長の久野美和子さんとのゲスト対談があった。
  - その後、「フォーリーフ」「かがくうG」「ウエッブサプライ」「かわさき創造 プロジェクト」「ニッティングルーム・ミミ」などの事業計画発表があった。







IT関係の力を生かして地域を活性化させたい、という思いから、百合丘小学校の PC 指導者に応募。伊藤靖二と森正昭が 2004 年 10 月から地域ボランティアとして活動を始めた。

# ワークショップ発表会で配布されたチラシ かわさき創造プロジェクトの事業計画

#### 目的

シニア地域創造ワークショップの成果を受け継ぎ、市民とともに発展・成長するシニア中心のグループとして立ち上げる。

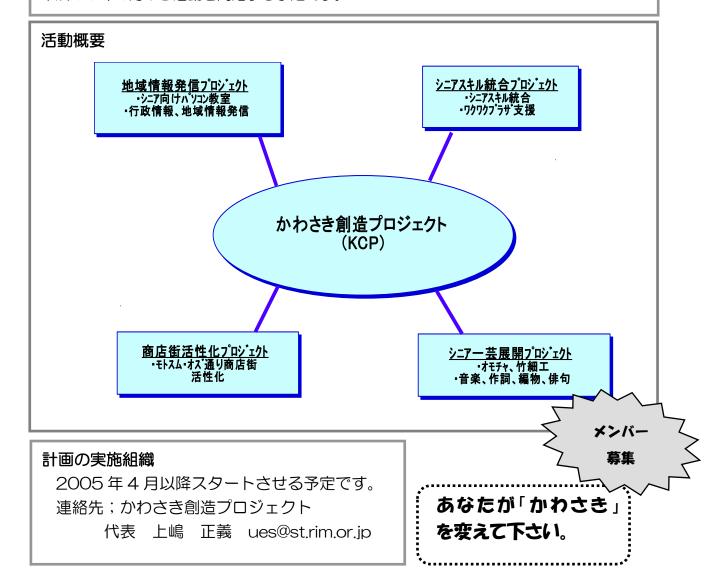


#### 背景•課題

川崎市の住民は「川崎都民」といわれるように、地域への関心が今一つ不足しているように思われます。

しかし、時代はいま**中央重視から、地域重視へ**と変わりつつあります。また、団塊の世代がシニア世代入りし、**シニアの経験と知識を地域の活性化に役立てたい**と考える人が一段と増えてくると思われます。

私たちはこれまで検討を進めてきた川崎市シニア地域創造ワークショップの成果をベースに、皆さんの力をお借りしながら、任意団体「かわさき創造プロジェクト(KCP)」を結成し、平成17年4月から活動を開始する予定です。



# (3)かわさき創造プロジェクトの結成

「かわさき創造プロジェクト」の動きが、読売新聞で報道され、一緒に活動し たいという人たちが 15 名に達した。

● 2005年6月「かわさき創造プロジェクト」の発足会が開催され、44名が 名を連ねた。行政からも5名が参加。

● 2005年7月に総会を開催し、設立趣旨、 定款事業計画、理事の選出を行い、任意団 体としてスタートした。

#### かわさき創造プロジェクト 総会式次第

開催日時;2005.07.23(土)

15:00~17:00

会場;生涯学習プラザ・第2会議室

#### 〈議事〉

1	開会のことば	事務局
2	議長の決定、書記指名	事務局
3	出席者の確認と、委任状の確認	上嶋
4	総会の議題の確認	上嶋
5	定款の説明と議決 (第1号議案)	上嶋
6	設立趣意書の説明と議決(第2号議案)	上嶋
7	各事業の提案と議決(第3号議案)	

① 地域情報受発信

• パソコン教室 伊藤 • 行政 • 地域情報発信 滝澤

② スキル活用

スキル交換 木島 わくわく情報ネットワーク支援 森

③ 商店街支援 オズ通り商店街活性化 上嶋 ④ 一芸教室開催事業 三浦

注) 今後の会員の参加方法について補足説明 事務局

8 挨拶と理事の紹介

⑤ 本部インフラ整備

上嶋 司会;事務局

木村

9 説明と報告、討議 ① 会則の説明/かわさき創造プロジェクトの

組織と機能

② 今後の活動について(どの事業に参加する か? それぞれの説明会は?)

③ 川崎市との連携の現状 (ア)拠点紹介 (イ) その他

10. 懇親会の案内 滝澤 11. 閉会 事務局





2005年7月23日 総会

#### 発足への賛同者/44名

総会当日の参加者(KCP)/上嶋、伊藤、 滝沢、木島、森、三浦、木村、片山、 上原、徳丸、山口陽子、鈴木、荒川、 中村俊夫、大西正、森本、新木

など 20 名

#### 総会当日、行政からの参加者/

野本、稲垣、森部、夏井



読売新聞(2005/4/5)に紹介記事が掲載された

#### 「かわさき創造プロジェクト」の設立趣意書

上嶋 正義(2005/2/1作成)

川崎市は、南部は京浜工業地帯の中核、北部は緑豊かな東京のベッドタウンとして知的 レベルの高い住民の住む都市である。現在も既に相当数の定年退職者(シニア)が居住しているが、「川崎都民」という言葉が示す通りこれまで地域の活性化活動に消極的であったことは否めない。

また今後はいわゆる「団塊の世代」が定年を迎えることにより、知的シニアは急激に増加する。

これらのシニアが知的な面で活発に活動する場も一部で生まれつつあるが、川崎市在住の市民による手作りの活動の場は少ないのが現状である。

平成 16 年 7 月に川崎市の呼びかけで市内各区に居住するシニア 37 名が集まり、「川崎市シニア地域創造ワークショップ」の名称のもとで、これまで数次の会合を重ね、幾つかのテーマについて活発な議論を経て成果を得つつあるところである。この成果は来る 3 月 19 日の発表会の場で公表される。

これらの成果について、今後もなお検討を深めて近い将来 NPO 法人化を目指すべく、新しく任意団体を設立し活動を続けることにした。

本団体の目的は、①原則として川崎市に居住するシニアが、新しく地域活性化のために活動する場を提供すること ②地域のニーズに密着した各種のテーマについて、シニアの持つ知恵と経験を活かして解決を図るプロジェクトを創出し地域の活性化に資すること、の二つである。

活動の基本方針としては、①近い将来設立する NPO 法人を、事業型として活動展開できるように検討を深めること ②会員の知恵を活かして、具体的に新しいプロジェクトを創出すること ③趣旨を広く市民に訴え、賛同する会員を集めること、を掲げる。

現時点で活動を展開している具体的なプロジェクトは、以下の三つである。

- (1) 地域情報受発信プロジェクト
  - ①シニアのパソコンリテラシーの向上を目指すシニア向けパソコン教室
  - ②シニア向け行政情報、地域情報の発信
  - (2) シニアスキル活用プロジェクト
    - ①シニアの持つスキルをデータベース化し、これを活用した各種市民活動の展 開
    - ②学童保育にシニアの知恵を活かす「わくわくプラザ」活動
  - (3) 商店街活性化のためのコラボレーションプロジェクト
    - ①元住吉オズ通り商店街活性化のためのコラボレーション

これらのプロジェクトについて、推進責任者、事業計画、スケジュール等を整備し具体 化を図るとともに、新規プロジェクトについても順次取り上げていく予定である。

以上

# 3. NPO 法人として新たな出発

川崎市主催のワークショップをきっかけに、定年退職したシニア達が任意団体を結成して「地域のために何かをしたい」と活動に取り組んできたが、2006年5月に特定非営利活動法人(NPO法人)を取得するに至った。このことは新聞等にも取り上げられ、市民の共感を得るところなり、次第に入会者が増えていった。



# 4. チャレンジの時代(2005~2009年)

## (1) 多様な事業に挑戦

発足からの 5 年間は、いろいろな事業をトライし、事業活動としてふさわしいのか、 社会的な効果はあるのか、収益はどうなるのかなどを検証する期間であった。

商店街の活性化事業、スキル交換事業、わくわくプラザ支援活動などをトライアルの 上検討したが、事業として継続していくのは困難ということで中止となった。

また当法人の知名度が高まったためであろう、いくつかの事業への参加依頼があった。 一方では、シニアのパソコン教室、地域情報受発信事業、ゆうゆうサロン事業、小学 校の PC 学習支援事業などが事業としての方向性が定まり継続できるようになった。

また、2007 年から地域情報受発信事業を、2009 年からシニアパワーアップ事業を行政から受託し、事業として育て上げられたことは、以後の経営基盤を固めるうえで大きな支えとなっている。

#### チャレンジテーマの状況

事業名	事業の狙いと進め方	依頼先	実施時期	結果
商店街活性化事業	元住吉・オズ通り商店街の活性化支援のため HP のリニューアルを実施 ●各店舗からのヒヤリング ●キーライフ社と協業	川崎市商店 街連合会·商 店街活性化 助成金	2005.4~ 2007.3	<ul><li>◆オズ通り商店街 HP をキーライフ社と共同作成</li><li>◆空き店舗を利用し、PC 教室開催</li><li>◆2006 年度で助成金が切れたところで終了</li></ul>
わくわく情 報ネット支 援事業	こども文化センターやわくわく プラザの HP を通して地域教育情報の受発信を行う ●地域子ぶんの現状調査 ●わくわくの子どもたちとの遊びを通し、課題を探る	KCP の構想	2005.7~ 2006.3	<ul><li>■こどもを通わせる親との 接触ができず。(預かっ てもらえばそれで十分と いう意識)</li><li>■一緒に活動する同志が 得られない。</li></ul>
母子福祉 センター PC 入門 講座	シングルマザーの就職支援 のための PC 活用基礎講座、 就職マインドの養成。	川崎市母子福祉センター	2009.4~ 2012.3 毎週火曜 日	● 女性講師を派遣、受講者が頻繁に入れ替わる。 ● 3 年間実施し終了。他の団体が引き継ぐ。
IT 支援事 業	事業者の要望を受け、 HP 構築を行う。 ● アルテリッカしんゆり 2009 の HP 作成、講演品目、日 程の案内	新 百 合 芸 術 祭事務局	2008.9~ 2010.9	<ul><li>2008 年 12 月に Web へ アップ、2009 年 3 月スタート。</li><li>依頼主の事業変更により終了。</li></ul>

# 発足時からチャレンジした事業、定着した事業、受託を受けた事業

	年	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
		(H17)			(H20)	(H21)	(H22)	(H23)	(H24)	(H25)	(H26)	(H27)	(H28)
	商店街活性化事業												
チャレンジした事	スキル交換・わくわく支援												
	HP作成事業												
	母子福祉センターPC学習												
業	中野島·麻生PC教室												
	小学校PC支援事業												
定着	北部リハビリセンターPC教室												
した	ふるさと館・他でのPC教室												
事業	ゆうゆうサロン事業												
	地域情報受発信事業(受託①)												
	シニアパワーアップ事業(受託②)												
	学校施設有効活用(受託③)												
	地域の寺子屋事業(受託④)												
	i考 この年のKCPの出来事)	KCP任意団体として発足	KCPNPO法人となる	受託事業①始まる		受託事業②始まる	上嶋代表から大下代表へ		定款に教育支援活動を追加	受託事業③始まる。①終了	がわぽ」自主運営。	受託事業④始まる	
		KCPがテーマを決めて運営している(してきた)事業											
			KCP	が川嶋	詩市から	5受託し	して運営	営してし	いる事業	ŧ			
	受託事業の終了後、助成金で運営している事業												







(左)小学校 P C 支援事業 (中)シニアパワーアップ 事業 – 講演会—

(右)「かわぽ」スキルア ップ講習会

## (2) 新事業立ち上げをめざす意見交換会

#### ~ 会員による "ホンネトーク" KCPの現状と今後 ~

KCPの事業活動は多岐にわたっていて、普段は事業ごとに活動をしているので、会員同士の横断的なコミュニケーションの機会がないことから、KCPの現在と将来についてザックバランに意見交換・話し合う機会を随時設けた。会員として自分自身がやりたいことやKCPの活動として新たな事業を企画するなど、KCPの今と未来を思いのまま語り合い、新たな事業展開につなげる進化を図るための"発芽"の場として機能させた。

これらの検討は、2012年度から教育委員会委託「学校施設開放有効活用事業」 として結実した。

#### \*意見交換の主な内容(2011~2013)

#### ◆広報・情報発信など

- ●多様な事業活動を一言で的確に表現するキャッチコピーが必要。
- ●発信力向上を目指して HP 改定。リーフレットA4判三折作成。
- ●メディアへのパブリシティ活動。
- ●大学との事業連携。専修大学の市民活動団体広報物作成PRJ。

#### ◆KCPの特性、社会貢献の術

- ●異なる分野で仕事をしてきた人が様々な経験を持ちよりコラボ出来ている充実感がある。
- ●各事業を横につなぐ交流会活動の様々な出会いが自分を変えた。
- ●社会福祉施設等でのPC 学習支援。知的・視覚障害者の個人学習も。
- ●マンション集会室での PC 教室等地域に溶け込んで活動する。
- ●高齢者は外に出たがらない。PC の出張デイサービスも視野に。
- ●生活保護受給者への PC 学習支援。社会で必要とされる自分づくりを。行政に提案してはどうか。
- ●今後、タブレットの時代が来る。対応を考えておく必要がある。

#### ◆新しい事業展開など

- ●KCP 会員それぞれのスキルを PR。学校支援センターなどを対象に。
- ●定年退職準備講座を企画し、企業を対象にプレゼンする。
- ●企業と公的な活動を協働事業化する。
- ●市内で活動するシニア関連事業団体をネットワーク化し、協働する。
- ●地域デビュー講座を開講する。定年退職して地域に戻ってきている人を対象に、地域参加活動の心得等伝授する講座を開く。地域ごとに、町内会・自治会に働きかけて連携事業として行うのも一つの方法。
- ●生涯学習相談員としての活動展開。

会社終われば地域の学び、生涯学習の時代に入ることから、KCP 会員による生涯学習相談員としての活動分野を開拓する。

●スキル交換~生涯学習~

学びや趣味等の得意技を持つ人・教えることができる人と、習いたい人・やってみたい人とをつなぐ仕組みづくりをする。

●地域で必要とされる自分づくりを通して自己実現の場を確保する。

以上の意見交換会&検討過程を経て、次頁の新規事業企画提案を行った。

# (3)2012年度 新規事業「学校施設開放有効活用事業」企画案

⇒2012年度から教育委員会委託「学校施設開放有効活用事業」として 結実した。

#### 【基本コンセプト】

- ◆生涯学習・社会教育を核とした超高齢社会のコミュニティづくり 教える人と学びたい人をつなぐ仕組みを構築
- ◆地縁・知縁・好縁づくりで地域社会活性化 健康と生きがいを手に入れ手応えのある日々、充実したシニア L を築く

#### 【ミッション】

- 1 誰でも教えられる場、学べる場
- 2 選別、競争のためではない、学ぶ喜びを分かち合える場
- 3 新しい公共を生み出す場
  - ●生涯学習の機会と場づくり
  - 自己実現・他己実現と生きがい・健康づくり

学交

- 絆、つながりの輪づくり、地縁社会の支え合い -
- 超高齢社会にふさわしい地域コミュニティの構築
- 団塊シニア世代の地域参加、居住地へのソフトランディング

#### 【事業内容】 ~学習交換の機会と場づくり~

- 1 市民の培った知識・経験・技術を「伝え合い・分かち合う場」
- 2 市民の培った知識・経験・技術を「再活用する場」
- 3 市民の求める学びと教育・福祉等「地域のニーズをむすぶ場」
- 4 21 世紀の知識基礎社会(\*)に「必要な能力が学べる場」
  - \*知識基礎社会=中教審答申(平成17年度)。新しい知識、情報、 技術が社会のあらゆる領域で活動の基盤として重要性を増す社会。

【場の確保】 小・中学校の特別教室棟を活用

【運営】 シニア世代の参加を得て、地域で管理・運営。 地域の生涯学習講座、文化、スポーツ活動等の場を確保。

#### 講師&受講登録



## 講座指導&受講



# 地域で技を生かす

- ●介護技術を学びたい
- ●パソコン指導
- ●英字新聞読みたい
- ●パンをつくりたい
- ●介護技術入門講座
- ●PC学習講座
- ●英字新聞教室
- ●パンづくり講座
- ●老人ホーム等で活動
- ●地域でPC教室
- ●地域で大人の英語塾
- ●介護施設等でボラ

# Ⅱ.2010年以降の事業活動

ここでは、2010 年以降から実施中の事業、あるいは 3 年以上継続したが終了した 事業について紹介する。

# 1. 地域情報受発信事業

## (1)事業の始まりとその狙い

2006年KCP発足当初、事業の一つとして「行政・地域情報発信 シニアナビ SOZO」を担当会員4名でスタートした。シニアがシニア層に地域情報を発信し、シニアの地域活動を活発化していく事業とした。そんな折、川崎市のシニア向け施策の一つとして「かわさきシニア応援サイト」のHPつくりの企画があった。そのHP上にKCPはシニアリポーターとして、リポート記事を掲載することになった。(川崎市と協働事業)

急遽始まったシニアリポーター事業は、手探り状態の活動であった。リポーター養成講座をKCP理事たちが中心になり実施。リポート掲載月に4本を目標に、行政情報・地域情報を分かり易く伝えていくことを目指した。

## (2) 10年の歩み

2007年、リポーター養成講座を 10月に実施。一般応募者 16名が終了。事業として活性化。新聞掲載、テレビ放映(TVK テレビ)、かわさきFMに出演。川崎市との定例会など活動体制が整う。2009年リポーター会員 38名となる。取材記者のレベル向上を目的に、スキルアップ講座実施。市の広報誌「かわさきいきいきシニアライフ・インフォメーション」に活動紹介がされる。「かわさきFM」再度出演。同年、改修サイトへ移行し、リポーター各自が直接 HPに記事を掲載し、市の添削工程から離れた。取材からサイト掲載までが大幅に短縮された。

2011 年活動紹介の初パンフレット作成。活動キャラクター「シニアちゃん」誕生。 2012 年 2 年後の自主運営活動に向けて、検討委員会を発足。行政の協力指導のも とサイトは市から独立した HP 構成などを作成。当法人の自主運営となる移行準備を、 従来の活動と合わせて進める。リポーター登録数 27 名。

2014年 4月より自主運営の開始。川崎市民公益活動助成金を受給。市内協賛企

年	アクセス数
2011	5,762
2012	9,165
2013	9,130
2014	14,168
2015	13,475

業から寄付も受け、謝礼にバナー広告を掲載。新設 HP 川崎シニアポータル「かわぽ」となる。同年末には神奈 川テレビの取材を受ける。高津警察署にロケを敢行。その取材風景が 15 分間の番組コーナーとして放映された。 2015 年 2 度目の川崎市民公益活動助成金支援を受ける。各自の裁量で活動内容が充実した。

## (3) 実際の活動とサイトの内容

- \* 市内、近郊の出来事を取材したリポート記事作成と情報集め。編集会議への出席。
- \* 川崎市内ボランティア団体の一覧=ページ名「仲間のページ」
- \* 川崎市からのお知らせ欄=市との報道協定により行政の最新情報をいち早く掲載。
- \* おすすめイベント欄=一般からの投稿欄・イベント主催者が活用できる。
- \* 市民生活情報ニトップページ、バナー広告から事業者のメッセージが閲覧できる。
- \* 写真で情報を寄せる一般開放の投稿欄=ページ名「快適生活」



# (4) この事業の特長

名もなき人々の懸命な活動や、街に埋もれている光る出来事を取り上げていく。 こうした情報提供により、シニア世代が新たな生きがいを見つけ、その持てる能力 が地域に還元されることを目標に、自分たちも新たな出来事を楽しむ。

# (5) この事業を進める上での課題

記者としてものをとらえる力、PC操作向上など、毎回、自己の壁を超える気力の維持。加えて取材交通費、HP維持、通信費などの運営費確保と新リポーターの増員など。

# (6) FM放送、TV神奈川に出演

かわさき「アクセスかわさき 903」 FM 放送に出演。2016 年 8 月 29 日放送。 対談形式でシニアリポーターの活躍が紹介され、各自が取材を通した体験を語った。 リクエスト曲に「スタンドバイミー」を。選局理由は「そばにいてという意味の ほかにともに行く」という意味があるからと答えた。

テレビ神奈川「love かわさき」という毎週土曜日 9:00 放送の番組に川崎市の推薦を受けて生出演。取材状況のロケを行ったものも放送された。2015 年 12 月 6 日放送。

ロケは8月に高津警察の特別な許可をいただき、署内にテレビカメラが入り、振り込め詐欺現状取材が撮影された。



テレビ神奈川「love かわさき」に出演 2015年12月6日放送



「アクセスかわさき 903」FM 放送 2016 年 8 月 29 日放送

# 2. シニア向けパソコン学習支援事業

# (1) パソコン塾からのスタート

情報化社会が進展する中で、シニア層がPC機器を使用できるようになり情報弱者にならないために、伊藤靖二を中心とするメンバーでPC教室を 2005 年に立ち上げた。

方針として、

- ・初心者でも気軽に参加できる
- 廉価で学べる
- ・習熟度度合いに合わせたきめ細かいレッスン

を掲げPC教室の運営を開始した。

シニア層向けの手作り資料を作成し、教室というより塾という雰囲気ではじまった。 初年度は元住吉、中野島、日進町の3か所で教室を開催し、延べ人数 489 名の受 講者があった。併せて個人レッスン形式のPC学習支援も行った。

2006年、参加生徒の口コミで評判が徐々に広まってきた。3か所でのPC教室は参加者が増加し、教室の場所確保、PC機器の購入、講師の養成など事業拡大のための課題も出てきた。教室参加者は延760名となり、個人レッスンも7名で109回実施した。

2007年、元住吉での教室は場所が確保できず終了したが、宮前区での教室が新たに開始。教室参加者は延467名、個人レッスンは4名で77回実施。

# (2) 飛躍の始まり

丁寧で解りやすい指導がKCPのパソコン教室の評判を広めていった。

新規に麻生と百合丘のいこいの家、大山街道ふるさと館、百合丘リハビリセンターでの教室が開始された。

2008 年、教室参加者は延971 名、個人レッスンは2名で45回実施。年間100万規模の事業となる。

# (3) パワーアップ

シニアPC学習支援活動が評価されて 2007 年、リユースのPC10台の寄贈をイーエルダーより受け、翌年にはマイクロソフト社より Windows7の OS と Office のソフト10ライセンスを提供される。そして川崎市健康福祉局長寿社会部よりPC 教室の運営(シニアパワーアップ事業)を委託される。

丸子多摩川と日吉のいこいの家で新たに教室を開始。

2009年、教室参加者は延927名、個人レッスンは3名で41回実施。

# (4) 躍進

2010年、7か所でPC教室を開催、参加者は延900名となり、2011年には10か所に拡大され、延参加者は1300名となり1000名を超えることになった。講師の他にサポートするメンバーが3~4名という体制が出来、落ちこぼれそうになる受講生にマンツーマンに近い指導が行えるのがKCPの大きな特徴となってきた。

その後も教室開催数は200回以上、延べ参加者は1600~1700名となる年が続いた。

2014 年にはPCを所有していない参加者への貸出PCを30台に増やし受け入れ体制を強化。

シニア講師によるシニア受講者のためのPC教室は高齢化の進展とともに活発になり、企業で開催されるパソコン教室も同じような企画が増えてきた。

KCPもこれに応えるため講師陣の強化と継続使用できる場所の確保がこれからの課題となっている。また新しいOS・Windows10へのアップグレードを終了。進化するデバイス(スマートフォン等の携帯端末)への対応、受講者のレベルアップに応える教科内容を検討していく段階になってきた。

## (5)「ありがとう」に支えられて

教室の終了時に受講者の皆さんから、 「有難うございました」という声を聴くた びに、この活動の楽しさを実感します。

シニアによるシニアのためのパソコン学 習を続けてきて良かったと思う瞬間です。



教室風景



受講者の皆さんと 教室終了時に。

# 3. シニアパワーアップ事業

2009 年に高齢者在宅サービス課からの委託を受け、KCP で「シニアパワーアップ 事業」の事業提案書を作成、それに基づき事業委託が行われた。

#### ● 概要

これまで、生涯現役支援センターで行われてきた事業の一部を、KCPで実施することとなった。

09年1月にこれまの活動経験を参考に提案を行ったが、後日予算上の理由から、 大幅に減額された予算提示を受け、初回は赤字覚悟で実施することとした。 実施する項目は、以下の3事業であった。

- ① 啓発事業に関すること;シニアライフ講演会
- ② IT 技術の習得・活用事業に関すること;パソコン講座
- ③ シニア講座に関すること;シニア傾聴講座

#### ● 基本的な考え方

設立趣旨として掲げた、「地域活性化のために、シニアが活動できる場をつくる」「シニアの知恵と経験を生かし、地域の課題解決にあたる」につながる提案とした。

- ◆ 啓発事業/講演会では、シニアライフ位置づけに関するテーマとし、後半で具体的活動につなげられるような情報提供を行う場としたい。
- ◆ シニアの PC 教室では、「ゆっくり、くりかえし」ペースで実施、身近な地域 施設を利用する。今年度は KCP 会員をその講師養成するが、次年度以降は外 部に拡大したい。
- ◇ 傾聴講座では、初心者を対象に実施、活動中の団体紹介を行うことで、具体的 な活動へつながるよう進めたい。

#### ● 役割分担

- ◆ 行政側は、予算措置、市政だよりでの募集、会場確保など分担する。
- ♦ KCPは、提案書に沿って実施計画を遂行する。

以下、3つの事業についてその経過を述べる。

# (1)シニアのパソコン教室

#### ① 2009年

川崎市との協働事業としてシニアパワーアップ事業が開始された。

その事業と一つとしてシニア向けパソコン教室を開催。

シニアライフを充実して過ごすためのツールとなるパソコンの活用を促進する ため、初心者の習得支援を目的とした。

初年度は丸子多摩川いこいの家で開催され、参加者 14 名で 12 回実施、延 141 名が受講した。

#### ② 2010年

教室の会場を大山街道ふるさと館と日吉いこいの家の2か所に拡充。 参加者が25名となり、各教室で20回の講座を開催した。

#### ③ 2011年

中丸子いこいの家、市立看護短大が新たに教室の会場となり、参加者が63名となり、受講希望者が定員の2~3倍以上となる教室も出てきた。全教室で合わせて50回の講座を行った。

#### ④ 2012年

大山街道ふるさと館、中丸子いこいの家、市立看護短大の3会場で各々20回 の教室を開催。受講者数は延942名となった。

#### ⑤ 2013年

大山街道ふるさと館、日吉いこいの家、市立看護短大の3会場で各々20回の 教室を開催。受講者数は延1020名となり1000人を突破した。

## ⑥ 2014年

大山街道ふるさと館、日吉いこいの家、市立看護短大の3会場で各々20回の 教室を開催。受講者数は延1014名だった。

## ⑦ 2015年

大山街道ふるさと、市立看護短大の2会場で各々20回の教室を開催。受講者数は延821名であった。

年	場所	回 数	参加者
2009	丸子多摩川いこいの家	12 回	141 名(延べ)
2010	大山街道ふるさと館、日吉いこいの家	各20回	25名 ※①
2011	中丸子いこいの家、市立看護短大	計 50 回	63名 ※②
2012	大山街道ふるさと館, 中丸子いこいの家, 市立看護短大	各 20 回	942名 (延べ)
2013	同上 3カ所	各 20 回	1020名 (延べ)
2014	同上 3カ所	各 20 回	1014名 (延べ)
2015	同上 3カ所	各 20 回	821名(延べ)

※①は2教室の参加申込者数合計※②は3教室の参加申込者数合計



市立看護短大で行ったパソコン教室の修了生

# (2)シニアライフ講演会

#### 【開催趣旨】

①シニアを対象に「人生の最盛期"サードエイジ"をどう生きるか」をテーマとす る講演会を開催し、シニアライフ充実・社会参加への自己啓発の機会を提供する。

②NPO 法人等市民団体による活動紹介を行い、別室に展示ブースを設けて来場者 とのの交流の機会・場をつくり、地域活動参加への参加を呼びかける。

#### 【開催内容】

◆平成 21 年度(エポックなかはら)

(1)講師:堀田 カ・さわやか福祉財団理事長 「今がチャンス! 悔いなく生きよう」

(2)活動紹介: 22 団体。来場者 168 人。

◆平成 22 年度(エポックなかはら)

(1)講師:木村大作・映画監督、撮影監督 「誰かが行かねば、道はできない」

(2)活動紹介:14団体。来場者200人。

◆平成 23 年度(エポックなかはら)

(1) 袖井孝子・お茶ノ水女子大名誉教授 「男のタテマエ、女のホンネ」

(2)活動紹介:16団体。来場者180人

◆平成 24 年度(エポックなかはら)

(1)講師:田部井淳子・登山家 「人生八合目からがおもしろい」

(2)活動紹介:15団体。来場者163人

◆平成 25 年度(市役所第 4 庁舎/大雪で交通マヒ)

(1)講師:鎌田 實•諏訪中央病院名誉院長 「人のために何かをすると 思いやりホルモンが出る」 (2)活動紹介:17団体。来場者165人

◆平成 26 年度(市役所第 4 庁舎)

(1)講師:三浦豪太·登山家

「父・三浦雄一郎のいきいき人生~目的を

持って生きる~」」

(2) 活動紹介: 16 団体。来場者 185 人

◆平成 27 年度(エポックなかはら)

(1)講師: 今井通子•登山家

「山が教えてくれたもの〜健康で生きが いに満ちた人生を送るために~」

(2)活動紹介:20団体。来場者237人

◆平成 28 年度(新百合トウェンティワンホール)

(1)講師:小泉武夫・東京農大名誉教授 「医食同源のすすめ〜健康長寿の和食を 次世代に~」

(2)活動紹介:26団体。来場者358人

















講演会チラシ

# (3)シニアの傾聴講座

#### ① 事業の始まりとその狙い

川崎市長寿社会部からの委託事業の三本柱の一つ。

2008 年度まで川崎市で実施していた「傾聴講座」を、協働事業として継続実施して 欲しいとの依頼がKCPにあった。

KCPとしては初めての取り組みではあったが、傾聴講座実施経験のある会員や傾聴講座を受講、活動している会員がいて、事業推進を順調に開催出来た。

初年度の計画推進者 吉良、荒川、森本、片山

#### ② 10年の歩み

講座の目的;「傾聴のスキルを習得し、地域活動に繋げる」

受講者応募;市政だより、チラシ、ホームページ

実施の準備;推進者打ち合わせにより、カリキュラム作成、講師依頼と打ち合

わせ、会場確保とその準備、体験学習先との打ち合わせ等。

会場;川崎市生活文化会館「てくのかわさき」

	実施月	実施回数	修了者数	交流会	担当者数	講 師(敬称略)
2009	10~11 月	6 回	20 名	2 回	4名	朝生知加子·中辻萬治· 中村加奈子
2010	10~12月	7 回	20 名	1回	4名	朝生知加子·中辻萬治· 中村加奈子·水野晴彦
2011	10~11 月	6 回	19 名	1回	4 名	中辻萬治•中村加奈子
2012	9~11月	7 回	22 名	1 🗓	4名	中辻萬治·中村加奈子
2013	9~11月	7 回	24 名	1 回	4名	中辻萬治•中村加奈子
2014	10~11 月	7 回	23 名	1 回	4名	中辻萬治•中村加奈子
2015	11~12月	6 回	19 名	1 回	5名	稲富正治・池見麻里子







# 「シニアパワーアップ事業」が 介護予防推進功労団体表彰を受けました

表彰の対象として認めていただいたのは、09年度から市の健康福祉局長寿社会部と協働して毎年実施している「シニアパワーアップ事業」です。具体的には次の3事業です。①シニアライフ講演会開催と市民の地域参加に向けた情報提供、②豊かなシニアライフを支援するパソコン教室開催、③シニア傾聴講座の開催



# 4. 小学校のパソコン学習支援事業

## (1)事業の始まりとその狙い

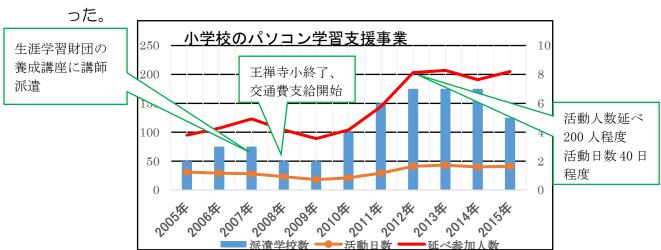
2004年に「川崎市シニア地域活動モデルワークショップ」参加の、森正昭・伊藤靖二の2名が、百合丘小学校のPCサポート募集に応募。翌年KCPが任意団体としてスタートするに伴い、その事業として立ち上がった。

この活動は、学校側からの依頼により行われ、先生をアシストする位置づけとなっている。そのため、事前に学校側に学習メニューを提出し、了解を貰うこととなっている。

# (2) 10年の歩み

小学校のパソコン活用の狙いは、授業の中でインターネット活用、文書作成、プレゼンテーションなどに活かしていくと聞いている。そのためには、低学年のうちにそのようなスキルを身につけさせておくことが必要となる。ただその手段は、各学校の方針によっている。2015年現在、派遣を希望する小学校は、KCP派遣/5校、生涯学習財団派遣/15校となっている。

- ① この活動は、百合丘小学校でのトライアルで自信を得て拡大を目指した。 そのころ PC 関係メンバーが多かった、麻生区や多摩区で受入れ校を開拓、学校 支援センターとの連携も拡大の力となった。また、小学校の PTA との連携が必 要なことも学んだ。
- ② 活動開始から3年目の2007年に、生涯学習財団が「小学校のパソコン学習ボランティア養成講座」を主催、当法人がその講師を担当することとなった。講座では、ボランティアの心得、小学校で使われる専用ソフトなどの学習することとした。後半で、当法人の活動紹介をすることで、高いパソコンスキルを持つ受講者の入会のきっかけを作ることとなった。
- ③ この事業への参加者は、当初、無償ボランティアだったが、当法人の財政基盤が固まってきたことから、2008年度からパソコン事業の収益から交通費を支給することとなった。2015年度からは交通費に加え、活動費も支給することとなった



# (3) 実際の活動内容

学習指導の様子や子どもたちとの交流の様子を紹介する。なお、学校名は省略している。







授業の始めに自己紹介

授業中のサポート、手をあげたこどもの話を聞いてお手伝い







見てみて、こんな作品(名刺づくりやお絵かき練習)ができたよ。

終わりは、ハイタッチで「さようなら」







お礼の言葉と紙のメタルをもらいました。 給食を一緒に「昔はどんな遊びをしたの? 今何歳ですか?」

# (4)この事業の特長と課題

パソコンが普通に使え、養成講座を受講すれば活動に参加できる。その意味では誰もが参加の機会が持てる。学校側の希望日程に対し、会員がエントリーをするので、無理のない参加ができる。

一方、参加した時の、子どもたちから伝わってくる感動や、元気さを貰えることは 何よりも替えがたい。

学校側からは、「一人の先生ではとてもできないことなので大変ありがたい」と感謝されている。

ただ、学校側からの助成金は貰えるときもあるが、持続的でなく活動費すべてを賄うほどではない。

この活動では収入が得にくいので、助成金を探すなどの対策が必要となる。

# 5. ゆうゆうサロン10年の歩み

## ◇ 立ち上げの趣旨 ◇

人は誰でも、老いて行きます。体も気力も衰えてきます、その老いの進度を少しでも 遅らせることこそが、いつまでも若さを保つ秘訣ではないでしょうか。

「中高年の日常に潤いを与え、生き生きと張りのある生活をおくるためのよりどころ」 とし、会員がこれまでに培ってきた技術や知識を生かして楽しく学べる趣味の講座を開 いて指導致してまいりました。

2006年	カンデラリア奥部屋(現在 KCP が理事会に使用している部屋)にて						
	「ゆうゆうサロン」立ち上げる						
	講座:水引き工芸講師:島崎容子						
	:英会話     :山口陽子						
	:茶道    :長谷川喜代江(紫水)						
	:編み物 :三浦美智子 (いずれも敬称略)						
2007年	編み物講座と英会話を実施。水引き工芸・茶道は受講希望者なし						
2008年	毎週金曜日産業振興会館内(カフェマイム)にて編み物講座のみ						
2010年	新講座 ハワイアン・リボンレイ始まる 講師 久保田光世						
	新講座 手芸 始まる 1年で終了 講師 中村峡子						
2011年	4 月より武蔵中原喫茶店(コーヒースポットライフ)へ移転						
	編み物講座・ハワイアン・リボンレイの 2 講座となる						
2014年	ゆうゆうサロン終了						





# 6. 中野島小学校「遊びと学びの寺子屋」

(教育委員会委託事業)

#### 【概要】

地域で、子どもたちに様々な学習機会を提供し、学力の向上や人間性の形成を図ると共に子どもたちの自己学習力を育む。地域ぐるみで子どもの教育、学習をサポートする仕組みづくりを通して、地域の教育力の向上を図る。且つ、シニア世代をはじめとする多世代にわたる地域人材の知識・スキル・経験等を活かし、多世代で学ぶ生涯学習の拠点を創る。

## (1) 学習支援教室

基礎的な学習や家庭での学習習慣づくりをサポートする。地域社会ならではの学びの場で勉強することの楽しさ・面白さを体験し、自ら進んで学ぶ意欲と態度を養う。

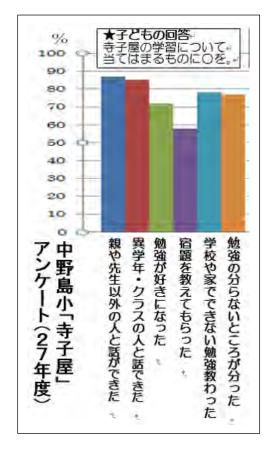
・ 開講:金曜日放課後、低学年(1-2年生)は午後2時半~3時半。

高学年(3-6年生)は午後3時半~4時半。

• 学習内容: 前半は各自が宿題など個別学習。後半は共通課題の学習を行う。

#### 〈実施状況〉

年度	開講(回数)	参加生徒	寺子屋先生	コーディネーター
2014 年度	11月~3月:16回	797人	87人	101人
2015 "	6月~3月:22"	922"	146"	152"
2016 "	6月~3月:22"	725"	154"	152"





寺子屋先生は4人でチームを組んで指導に当たる







# (2)体験学習・世代間交流

子どもたちが、世代を越えて地域の人たちと交流し、地域とのかかわりに関心をもち、地域で育つ喜びが味わえるよう、遊びや習い事、物づくりなど様々な体験と触れ合いの場を設ける。月に一度、土・日に実施。

年度	開講	参加生徒	大人	主な講座を一つあげると・・
2014 年度	5回 5講座	80人		「岡本太郎がやってくる」
2015 "	8" 11"	361"	214人	「科学実験:光のマジック」
2016 "	13" 25 "	552"	305"	「ブラインド・サッカー」

#### ★手作り遊びから料理、科学実験、スポーツまで





# 7. 中野島小学校「学校施設有効活用事業」

(教育委員会委託事業)

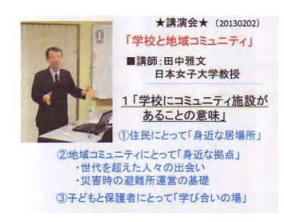
#### 【概要】

地域の財産である学校を、地域コミュニティの核として活用できるよう、学校教育に支障のない範囲で、施設の一部(特別教室棟)を地域に開放する。地域住民が活用することにより、住民同士が新たなつながりを得たり・深めたりする出会いと交流の場として位置付ける。同時に、地域人材による生涯学習事業を行い、地域の学びの場として活用する。

事業実施期間:2012年11月~2016年3月。

#### 【事業内容】

- (1)特別教室棟の諸施設を地域団体に開放し、利用時間帯の管理業務を実施。
  - ① 月~金:17時半~21時半。 土•日:8時半~21時半
  - ② 利用団体:2015年度は12団体。
  - ③ 利用日数:205日
  - ④ 利用コマ数(1コマ4時間):561コマ
  - ⑤ 利用人員: 6,584人
  - ⑥ 施設開放時間中における特別教室棟の安全・維持管理を行う。
  - ⑦ 学校施設有効利用上運営委員会、開放指導員、利用団体との連携・調整。
- (2) 特別教室棟を活用した地域ならではの生涯学習事業~学習交換~を実施した。
  - ① 子どもたちの体験学習、子育て支援事業
  - ② 大人を対象とするシニアの経験や知識・スキルを生かした事業
  - ③ 地域団体との交流・連携による事業













# Ⅲ 10年目委員会の発足と活動報告

## 【概要】

#### 1. 目的

設立から 10 年が経過し活動の歴史を残しておこうという気運が起こってきた。また、新規会員にKCPの設立時の思いを継承して行ってもらうためにも資料として記録しておこうということになった。12 名のメンバーで 10 年目委員会を立ち上げ10 数回の会議で討論を重ねてきた。

#### 2. 内容

委員は設立時からのメンバーでなく3~5年目の会員が主であったため、過去を振り返るではなく各事業部の現状を説明しその問題点を検討するという会議となっていった。今まで自分の活動する領域でしか捉えていなかったKCPを俯瞰的に見つめ考える場として機能したと云える委員会であった。

#### 3. 成果

委員会でまとめられた内容は理事会に提出され、その後の活動指針にも生かされている。また、10周年記念の大会でも発表されている。

ここで討議された問題点は即座に解決するものばかりではないが、すでに改善・改良されたものもいくつかあり 10 年を振り返った副産物も生まれている。

今後のKCPの展望を語り合う時間が持てなかった点がやや残念ではあるが、大変有意義な委員会であった。

## 【総括】

# ◆10年目委員会における現状把握・課題摘出と 今後の事業推進の方向性

#### 【KCP基礎データ】

1 発足: 2004年、川崎市主催「シニア地或活動モデル創造ワークショップ事業に参加のメンバー有志約30人が、終了後の05年、任意団体「かわさき崎創造ブロジェクト」を設立。

翌06年、NPO法人化。5月に設立総会。

2 会員: 05年:36人、10年:54人、15年:78人 16年85人

#### 3 事業活動

- シニア向けパソコン事業 06年度~
- ・ 域情報受発信事業 06年度~ 行政との協働事業 14年度から自主事業/かわさきシニアポータルサイト「かわぽ」
- ゆうゆうサロン事業 06年度~14年度
- 小学校PC学習支援事業 06年度~
- 母子福祉&PC学習教支援 10年度
- ・シニアパワーフップ事業 10年度~

- ・学校施設有効活用事業 12年度~15年度 行政との協働事業
- ・地域の寺子屋事業 14年度~ 行政との協働事業

#### 4 KCP「10年目委員会」(2015年10月~2016年2月)

- 目的: 会員とりわけ各事業リーダーの高齢化が進み、世代交代の時期を 事業活動の総括を行い、今後の課題を整理し将来ビジョンを構築する。
- 委員: 各事業から1人ないし2人。理事4人。一般会員。
- 運営:世話人、まとめ役、運営幹事 議事録作成等の各役割分担を決める。
- 内容: 各事業リーダーから事業活動の現状と課題等の報告を受け、委員全員で情報共有を 図り、総合的視点で検討・総括し、今後の方向性を示す。
- •報告:現状における課題と今後の方向性について、以下、理事会に報告。

#### 【組織面】

- ① 事業数が多く、各事業の活動内容、運営方法等がそれぞれ異なつていて、組織的に は縦割りの事業部制的な運営となっている。
- ② 事業間の人事異動はなく、会員間の横断的な交流の機会が少ない。
- ③ 会員にはできるだけ複数の事業に参加してもらい事業間交流を深める。
- ④ 理事経験者を増やし、会員による組織全体への理解を深める努力必要。
- ⑤ 組織の若返りと人材育成の取り組みを実施する必要がある。

#### 【人事面】

- ① 事業運営に直接かかわる活動(理事、リーダー等)をしているメンパーが少ない。 活動メンパーの固定化・高齢化が進んでいる。
- ② 稼働会員の増加と運営体制の若返り策の実施が求められる。

#### 【財政面】

- ① 行政との協働事業収入の割合が高く、自主事業による収入源確保が課題。
- ② 有償ボランテイア事業を前提に 無収入事業の有償化に取り組む必要。 有償ボランティア事業 = 「生きがい就労」
  - 無理なく楽しく働ける、生きがい・やりがい・達成感を得る。
  - ・現役時代に培ってきた能力・経験が活かせる。
  - シニアの就労が地域の課題解決につながる社会貢献となる。
- ③ PC教室など有償自主事業を拡大し、法人としての全体収入増を図る。
- ④ 今後数年間にわたる事業実施計画と収支見通しを立てて活動する。

#### 【管理事務面】

- ① KCP全体及び各事業の会計事務作業の見直しと総合化を検討する。
- ② 会計担当・責任者の負荷が大きい。
- ③ 原稿の会計事務作業のワークフローを整備する。作業の分散化・効率化と 正確さを維持する仕組みに改善する。

#### ★委員の意見(10年目委員会に参加して)

- ① KCP活動を俯瞰的な視野から全体を考える良い機会だった。
- ② 各事業の問題点・課題等を共有できて、連帯・仲間意識が高まった。
- ③ 一般会員ももっと参加できる今日にする必要がある。
- ④ 今後も、こうした委員会を定期的に開催するよう提言する。

以上、KCPを取り巻く環境及び社会情勢の変化を踏まえて、NPO法人の存在意義とKCPのミッション、存続・発展のための自己刷新、組織運営・事業推進にかかわるマネジメントの在り方、ガバナンス(意思決定・合意形成のシステム)の向上等をめざすこととした。

# IV. KCPの組織運営・広報・対外的な活動

# 1. 組織運営

# (1) 会員数の推移

マスコミでの活動紹介、HPでの情報発信、市民活動フェアなどへの出展、各種講座での当法人の活動紹介を通じ、順調に会員数が増加してきた。これは、当法人が社会的な信頼を得てきた結果と言えよう。

しかし、創設から数年間は、新会員へ適切なガイダンスを行ってこなかったため、自 分のやりたいことが見つからなかったなどと退会者が出ていた。そこで、入会希望者に は、当法人の設立趣旨、事業内容、定款などを説明し、参加したい事業を明示してもら

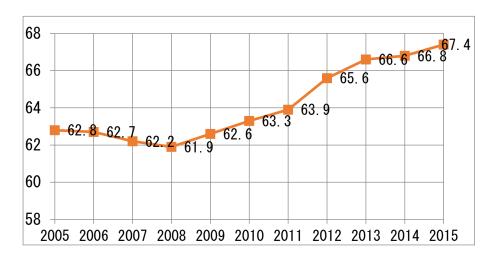
うことで、ミスマッチが出 なくなった。

しかし、家庭の状況や仕 <sup>80</sup> 事を始めたなどから、活動 <sup>70</sup> に参加できないため、退会 するという会員がいた。 - <sup>40</sup> 方では、実際の活動には参 <sup>30</sup> 加できないが、会費を払う <sup>10</sup> ことで支援するという会員 <sup>10</sup> もいる。



# (2) 会員の平均年齢

この 10 年の間に、年金支給年齢の引上げとそれに伴う退職年齢の引上げが進んだ。 そのため、地域活動に参加する世代の年齢が上がる一方、当法人を立ち上げた世代の 高齢化がすすみ、会員の平均年齢が高くなってきている。



## (3) 交流会の活動と随時行われたイベント

当NPO法人発足当初は30名にも満たない会員数であったが、3年後には40名近くになり事業内容も多岐にわたってきた。各事業部内での活動だけに終わらず、他事業部の会員とも交流を諮る場として交流会を企画することになった。

会員同士の交流を深めると共に新会員紹介の場としても機能するようになってきた。 また、個人では難しい社会見学、工場見学を実施してきた。会員になったメリットを 享受してもらうことにもなった。

① 屋内での交流会 (日本酒メーカー見学、グループホームの説明会、そば打ち体験など)







② 社会見学 (日本銀行&証券取引所、国会議事堂&皇居東御苑、静嘉堂文庫&赤坂迎賓館、 ソニー歴史博物館&泉岳寺など)







③ 工場見学 (日産自動車横浜工場、味の素川崎工場、サントリービール府中工場、クノール 食品、JFEスチール川崎工場など)





4 その他10 周年記念の集い





# 2. 広報活動

# <u>(1) HP による情報発信</u>

- 2006~2013年までは、HP を自前でデザイン、HTML 記述で作成してきた。 ここでは、一人の担当者がフォローしたため、掲載までの時間がかかっていた。
- 2014 年からは、Scrivre で管理された方式に変更することで、複数のメンバーが分担し作業できるようになった。HP の記述も、簡易 CMS をつかうため、写真挿入も含め作業が簡単になった。
- 2015 年からは、下段右図のように写真を入れて、スマホ対応が可能なデザインに変更した。
- 会員のページを充実させている。

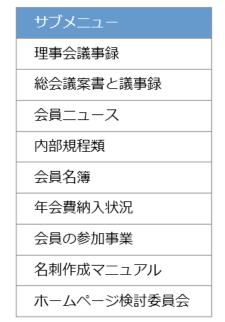
(2006-2013)

(2014)





(2015)





# (2) 市民活動フェアなどのイベントへ参加

地域活性化に向けて、市民団体との交流を推進するという設立趣旨に添い、川崎市市民活動フェア、高津区民活動見本市などに、機会があるごとに参加してきた。参加の形は、パネル展示、パソコンなんでも相談や情報モラルセミナーなどの企画出展である。



2007 年 8 月麻生区交流館・やまゆり「地域デビュー」に出展。左:山嵜、右:森



2008 年 11 月市民活動フェア 上嶋代表のプレゼンテーション



2008 年 10 月高津区民祭 ゆうゆうサロン・作品展示



2008 年 10 月高津区民祭 パネル展示 左:上嶋、右:滝澤



2008年12月市民活動見本市 左から大下・森・滝澤・木村



2015 年 1 月 ごえん楽市 パソコンなんでも相談 右端:伊藤



2015 年 1 月 ごえん楽市 KCP パネル展示 左:石渡、右:森

## (3) 冊子の配布

2012年、当法人の活動紹介をするために小冊子を作成した。

ここでは、事業紹介のほかに、設立趣旨、沿革、入会案内などをコンパクトにまとめている。

イベントの際の活動紹介用として配布、市民活動センターなどで冊子コーナーへ投入などに使っている。2015年に事業内容変更に合わせ改訂している。



三つ折り冊子の表(上)と裏(下)



# V. NPO 法人かわさき創造プロジェクトの沿革

#### 2004年

**5月** 川崎市主催「第1回川崎市シニア地域創造ワークショップ」に約40人 が応募

#### 2005年

7月 IT 関係メンバーが中心となり、任意団体 かわさき創造プロジェクト 設立、会員数 28 名

代表理事に上嶋正義 就任

●シニア向けパソコン教室 ●地域情報受発信事業 ●小学校のパソコン学習支援やわくわくプラザの活動支援 ●個人のスキルを互いに活かすための活動 ●商店街の活動活性化 ●編み物教室や茶道教室などの開催などの諸活動を立ち上げる

#### 2006年

- **1月** NPO 法人設立総会開催
- **3月** 第3回かわさき市民自治推進フォーラム/ かわさき元気メッセに初参加
- 4月 拠点を中野島新多摩川ハイム内に確保
- 6月 NPO 法人としての第1回通常総会を開催
- 8月 臨時総会を開催

#### 2007年

- 3月 第4回かわさき市民自治推進フォーラムに参加
- 4月 第2回通常総会、会員数/32名、定款を補う運用細則制定

#### 2008年

- 3月 第5回かわさき市民自治推進フォーラムに参加
- **4月** 第 3 回通常総会、会員数/40 名
- 10月 高津市民活動フェアに参加
- 11月 かわさきボランティア・市民活動フェアに参加

#### 2009年

- **4月** 第4回通常総会 代表理事に大下勝巳就任。定款改定議決 〈実施事業〉
  - ●シニアリポーター事業 (川崎市自治政策部との協働事業)
  - ●シニアパワーアップ事業(川崎市長寿社会部との協働事業)

- ●パソコン学習支援事業
- ●母子福祉センター支援事業
- ●小学校のパソコン学習支援事業
- ●ゆうゆうサロン事業
- 10月 高津市民活動見本市に参加

シニアパワーアップ事業の中で、シニアライフ講演会開催 (第1部;講演;さわやか福祉財団堀田努氏、 第2部;NPO法人・シニア関連団体との情報交流)

#### 2010年

- **3月** 第6回かわさき市民自治推進フォーラム
- 4月 第5回通常総会、会員数/48名(正会員/32名、準会員/16名)
- 10月 高津市民活動見本市に参加
- 11月 かわさきボランティア・市民活動フェア に参加

#### 2011年

- 4月第6回通常総会、
- 6月 高津区民活動見本市参加
- 10月 当法人パンフレット作成

#### 2012年

- **1月** かわさきボランティア・市民活動フェアに参加し、PC なんでも相談室 を開設
- 4月 第7回通常総会、会員総数59人(正会員;45人、準会員;14人) 定款改定/目的に教育支援活動を追加、法改正に伴う改訂実施
- 6月 高津区民活動見本市参加
- 6月 臨時総会開催、定款に事業の種類を追加(通常総会での変更を補足)
- 10月 高津区、多摩区の区民活動運営委員会へ参加
- **11月** 学校施設有効活用事業/中野島小学校におけるモデル事業(教育委員会からの委託)

#### 2013年

- 1月 かわさきボランティア・市民活動フェアで PC なんでも相談室を開設
- **4月** 第8回通常総会、会員総数64人(正会員;49人、準会員;15人)
- 6月 高津区民活動見本市に出展、「パソコンなんでも相談室」開設
- 8月 HP を簡易 CSM 方式に改め、編集作業を分担できるようにした

#### 2014年

- 4月 第9回通常総会開催(大山街道ふるさと館) (会員数71人、正会員55人、準会員16人) 役員の任期を1年から2年に、定款変更地域情報受発信事業(かわぽ事業)は、助成金を得て自主事業となる
- 8月 パンフレットを新たに作成

#### 2015年

- 1月 「ごえん楽市」にパネル展示で出展
- 3月 ゆうゆうサロン事業が終了
- **4月** 第 10 回通常総会開催(てくのかわさき)(会員数 72 人,正会員 61 人, 準会員 11 人)
- 6月 10年目の節目を迎え、「10年目委員会」を立ち上げ

#### 2016年

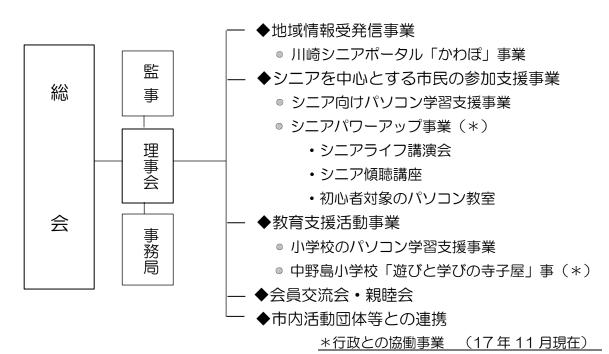
- 1月 「ごえん楽市」にパネル展示で出展
- 3月 中野島小学校における「学校施設有効活用事業」が終了
- **4月** 第 11 回通常総会開催(大山街道ふるさと館)(会員数 80 人、正会員70 人、準会員 10 人)

実施事業は、川崎シニアポータル「かわぽ」事業、シニア向けパソコン学習支援事業、シニアパワーアップ事業、小学校のパソコン学習支援事業、地域の寺子屋事業の6事業

#### 2017年

- 1月 「ごえん楽市」にパネル展示と「パソコンなんでも相談室」で参加
- 3月 川崎シニアポータル「かわぽ」事業に対する3年間の助成金が終了
- 4月 第 12 回通常総会開催(大山街道ふるさと館)(会員数 79 人、正会員71 人、準会員8人) 代表に栗田理事、副代表に石渡理事が就任

# Ⅵ. 付記 NPO 法人かわさき創造プロジェクト組織図・役員歴



# 発足からの理事、監事

	2005~ 2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013~ 2014	2015~ 2016
代表	上嶋正義	上嶋正義	上嶋正義	大下勝巳	大下勝巳	大下勝巳	大下勝巳	大下勝巳	大下勝巳
	森正昭	森正昭	森正昭	上嶋正義	上嶋正義	森正昭	森正昭	森正昭	森 正昭
	片山泰子	片山泰子	片山泰子	森 正昭	森 正昭	伊藤靖二	伊藤靖二	伊藤靖二	伊藤靖二
	伊藤靖二	伊藤靖二	伊藤靖二	片山泰子	伊藤靖二	滝沢利二	滝沢利二	栗田正道	栗田正道
	滝沢利二	滝沢利二	滝沢利二	滝沢利二	滝沢利二	三浦美智子	三浦美智子	三浦美智子	山口邦子
理事	木村 功	木村 功	木村 功	滝沢利二	岩永義輝	中村峡子	中村峡子	福永嘉和	石渡一美
7	山崎満弘	山崎満弘	山崎満弘	岩永義輝	三浦美智子	青木丈夫	梶田裕之	山口邦子	佐藤政孝
	木島千栄	三浦美智子	三浦美智子	三浦美智子	中村邦子	梶田裕之	栗田正道	石渡一美	升田尚子
			大下勝巳	田草川武		栗田正道	福永嘉和		
			岩永義輝	中村峡子					
監	三浦美智子	木島千栄	木島千栄	木島千栄	山崎満弘	山崎満弘	片山泰子	片山泰子	片山泰子
事				山崎満弘	片山泰子	片山泰子	青木丈夫	青木丈夫	岩永義輝

#### 【執筆者一覧】

I	発足から5年間の歩み  1 発足当時の時代背景  2 任意団体 かわさき創造プロジェクトの発足  3 NPO法人として新たな出発  4 発足からの5年間〜チャレンジの時代〜  (1) 多様な事業に挑戦  (2) 新事業立ち上げを目指す意見交換会  (3) 2012 年度学校施設有効活用事業企画案	森 正昭 森 正昭 森 正昭 森 下勝巳 大下勝巳
П	2010年以降の事業活動 1 地域情報受発信事業 2 シニア向けパソコン学習支援事業 3 シニアパワーアップ事業 (1)シニアパソコン教室 (2)シニアライフ講演会 (3)シニアの傾聴講座 4 小学校のパソコン学習支援事業 5 ゆうゆうサロン事業 6 中野島小学校「遊びと学びの寺子屋」事業 (1) 学習支援教室 (2) 体験学習・世代間交流 7 中野島小学校「学校施設有効活用事業」	石栗森栗大片森三大大大大鸡田。田下山正浦下下下下一一里正明泰昭智巴巴巴美道昭过巴子昭智巴巴巴巴
Ш	1 O年目委員会の発足と活動報告 ◆概要 ◆総括	栗田正道 大下勝巳
IV V	KCPの組織運営・広報・対外的な活動 NPO 法人かわさき創造プロジェクトの沿革、年表、	森 正昭 森 正昭
	◆組織図、発足からの理事・監事、執筆者一覧、編集後記	大下勝巳

【編集後記】日本は今、世界のいかなる国もまだ経験したことのない未知の社 会を歩んでいて、各国は"先進国・日本"の現状と今後に多大なる関心を持っ ているという。それは超高齢社会。我が国の後期高齢者は 2030 年には 5 人 に1人、55年には4人に1人になるとのこと。こうした時代背景のもと、私 たちが NPO 法人として「豊かなシニアライフ構築と市民生活の向上に寄与す る」ことをミッションに掲げて活動を始め、早や 10 年が経過した。超高齢社 会にふさわしい、シニア世代の「知・情・意」を活かせる地域社会を創ろうと 「かわさき創造プロジェクト」と名付けたのが昨日の事のように思われるが、 今では会員80余名に増え、5つの事業活動を行っている。私たち会員は、そ れぞれの活動を通して、地域で必要とされる自分を育て、仲間と共感し合いな がら、モチベーションを高めて「公」を「共」に担う。こうしたプロセスが、 NPO 法人としてその社会的役割を果たし会員個々の自己実現をもたらした。 その歩みを今も着実に続けている。この「創立 10 周年記念誌」が今後の活動 を後押しする力になれば幸いなり。本誌作成に当たっては上記執筆者の協力を 得たことに謝意を表する。同時に、表紙については石渡ー美理事、編集整理の 段階で川本順子さんのお世話になった。有り難うございました。(大下勝巳)

発行者 NPO 法人かわさき創造プロジェクト 代表理事 栗田正道

発行年月日 2018年3月